

研究発表もうしこみフォーム

氏名：牟田口 章人

氏名のローマ字表記：MUTAGUCHI AKITO

所属：帝塚山大学客員教授（3月31日に退職）

以降は帝塚山大学附属博物館特別研究員

専門分野：遼代考古学 文化財アーカイブス

メールアドレス；mutayan123@gmail.com

発表のタイトル：和泉久保惣美術館蔵・遼代馬具の復元的考察

発表要旨（600字～800字程度）

大阪府和泉市の和泉久保惣記念美術館は、昭和57年に開館した和泉市立の美術館で、日本と中国の絵画、書、工芸品など東洋古美術を主に国宝を含め、約12,000点を所蔵している（ホームページから）。筆者は、館藏品中の古代東アジアの金属器について2022年度から館と共同で調査研究を進めてきた。筆者が担当した遼代の馬具については、無機物・有機物の分析を行い、スウェード皮を紫根で染めた絹製の分厚い二重の袋で包んだ威帯を検出した。また、威帯に取り付けた装飾金具が、銀70%と銅30%の合金で、製造当初は金色に輝いていた事も成分分析により判明した。銀銅合金の金属器は、時代は遼の7世紀の吐谷渾王一族墓からも出土し、また絹帯威の帯は遼の陳国公主墓からも出土している。さらに紫威の馬具で飾り立てた馬は、中国河北省の宣化遼墓の出行図に描かれている。筆者はこうした情報を集め、館蔵の馬具をコンピューターグラフィックスで再現した。美術館収集品から、東アジアに広がる金工・染織技術、そして遼代馬具の構造まで解明したのは、我が国では初めての研究成果、といえる。



馬具の推定復元図